

津田梅子の生き方（特別編）～年譜～

西暦（年号）	年齢	津田梅子のあゆみ等	社会の動き
1864（元治元）年	0	陽暦12月31日、江戸牛込南御徒町に生まれる。父・仙、母・初子。	
1867（慶応3）年	3	父・仙渡米。	大政奉還。12月、王政復古の大号令。
1871（明治4）年	7	陽暦12月、開拓使派遣の5人の少女、岩倉使節団に伴われてアメリカ号で横浜を出発。	廃藩置県。文部省設立。
1872（明治5）年	8	1月、アメリカサンフランシスコ到着。11月、梅子、ランマン家に寄宿し、スティープソン・セミナリー（小学校）に入学。	鉄道開通。
1873（明治6）年	9	梅子、キリスト教の洗礼を願ひ出て、ペンシルベニア州オールズウィーンズで受洗。仙と初子、教会に通いキリスト教を学び始める。	2月、キリスト教禁止令が撤廃。9月、岩倉使節団、帰国。森有礼ら、明六社設立。翌年、『明六雑誌』発刊。
1875（明治8）年	11	仙と初子、洗礼を受ける。	2月 華族勸学所（のちの華族学校）設立。8月、女子師範学校生徒募集。スミス大学、ウェルズリー大学開学。
1876（明治9）年	12	梅子、捨松、繁子、ランマン夫妻とともにアメリカ独立100周年記念のフィラデルフィア万国博覧会へ。	帯刀禁止令。
1878（明治11）年	14	梅子、スティープソン・セミナリーを卒業後、ワシントンのアーチャー・インスティテュートに入学。捨松、繁子はヴァッサー大学に入学。	
1881（明治14）年	17	開拓使より帰国命令。梅子、捨松1年の滞在延期を申請。10月、永井繁子帰国。	下田歌子 桃天女塾創設。
1882（明治15）年	18	6月、梅子、アーチャー・インスティテュート卒業。10月、ヴァッサー大学を卒業した捨松と帰国。12月、繁子、瓜生外吉と結婚。	
1883（明治16）年	19	梅子、海岸女学校で教壇に立つ。11月、捨松、大山巖と結婚。12月、梅子、伊藤博文邸に招かれ、家庭教師兼通訳として働く。	
1884（明治17）年	20	梅子、桃天女塾で教え始める。6月、伊藤家から自宅に戻る。	
1885（明治18）年	21	9月、梅子、華族女学校教授補に就任。下田歌子は学監。	9月、明治女学校創立。内閣制度成立。伊藤博文総理大臣、森有礼文部大臣。女子師範学校、東京師範学校の女子部となる。プリンマー大学創立。
1886（明治19）年	22	11月、梅子、華族女学校教授に昇格。	帝国大学令交付。その後小学校令・中学校令、師範学校令公布。
1888（明治21）年	24	6月、華族女学校教員としてアリス・ベーコン来日。	
1889（明治22）年	25	9月、梅子、プリンマー大学へ入学。生物学を修める。盟友、アナ・ハーツホンと出会う。アリス帰米。	大日本帝国憲法発布。森有礼、暗殺。ハーナード大学創立。
1890（明治23）年	26	夏、梅子、アリス・ベーコン宅に滞在し、『Japanese girls and woman』の執筆を助ける。	教育勅語発布。第1回帝国議会召集。東京高等師範学校女子部は独立し、女子高等師範学校となる。
1891（明治24）年	27	1月、オスウィーゴ師範学校で教授法を学ぶ。2月、アリス・ベーコンの著作出版。梅子、メアリ・モリスに相談し、「日本女性米回国奨学金」委員会を設立。募金活動を展開。プリンマー大学にて、モーガン博士とカエルの共同研究を行う。	大山巖、陸軍大将に。
1892（明治25）年	28	6月、プリンマー大学専科修了。8,000ドルの奨学金募金、目標を達成。8月、帰国。9月、華族女学校に復職。	
1893（明治26）年	29	10月、アナ・ハーツホン、来日し、梅子と再会。	マウントホリヨーク、大学に昇格。
1894（明治27）年	30	モーガン教授との共同研究が科学誌に発表される。	日本、清国に宣戦布告。M.ケアリ・トマス、プリンマー大学学長に就任（1922年まで）。
1895（明治28）年	31	3月、チャールズ・ランマン没。10月、アナ・ハーツホン、2度目の来日。梅子、海外の新聞に『Japanese Woman and the War』を発表。	日清講話条約調印。
1897（明治30）年	33	梅子、海外雑誌に『The Future of Japanese Woman』を発表。	
1894（明治31）年	34	5月、女子高等師範学校教授兼任となる。6月、万国婦人クラブ連合大会に日本代表として参加のため渡米。デンバーでの同大会で講演。8月、ヘレン・ケラーに面会。その後、イギリスの指導的女性らに招待されイギリス視察の旅へ。ロンドン観光、ケンブリッジ大学を視察。ヨーク大主教を訪ねる。	
1899（明治32）年	35	1月、オックスフォード大学セント・ヒルダズ・ホールに1学期滞り、文学、倫理学、歴史学を聴講。3月、フローレンス・ナイチンゲールを訪ねる。7月、アメリカへ出発。アデライン・ランマン、アナ・アリスなどに会う。その後、帰国。8月、皇后に視察旅行を報告。12月、高等官五等、年俸800円となる。	
1900（明治33）年	36	1月、従六位に叙せられる。4月、アリス・ベーコン来日。7月、梅子、華族女学校・女子高等師範学校を辞任。私立学校令により女子英学塾の設立認可される。9月、東京市麹町区一番町の校舎に10名の生徒を迎えて開校式、授業開始。	
1901（明治34）年	37	4月、麹町区元園町にあった旧公館邸を購入、移転。11月、「英学新報」創刊。	成瀬仁蔵、日本女子大学校創設。
1902（明治35）年	38	4月、アリス・ベーコン帰米。5月、アナ・ハーツホン、来日し塾で教える。7月、麹町区五番町にあった女学校跡地を購入。	日英同盟締結。
1903（明治36）年	39	2月、五番町の新校舎に移転。4月、第1回卒業式。年末に専門学校認可の申請。	3月、専門学校令。
1904（明治37）年	40	3月専門学校として認可される。5月、アリス・ベーコン来日。5月、英語科教員無試験検定の申請。9月、社団法人英学塾設立認可。	対露、宣戦布告。
1905（明治38）年	41	6月、大山邸で女子英学塾同窓会発会式、捨松初代会長となる。9月、英語科教員無試験検定扱いを受ける。11月、梅子、東京YMCA初代会長に選出される。	ポーツマス講話条約調印。東京YMCA発会式。
1907（明治40）年	43	8月からせんそくの病氣療養と視察のため、1年間の休暇をとる。ハワイ・サンフランシスコ・フィラデルフィア・ワシントンへ。9月、ホワイトハウスに招かれ、ルーズベルト大統領と会見。イタリア経由で帰国（12月）。	
1908（明治41）年	44	4月、父・仙没。繁子、女子英学塾社員となる。	奈良女子高等師範学校創立。
1909（明治42）年	45	8月、母・初子没。	伊藤博文、暗殺される。
1910（明治43）年	46	5月、新校舎ハンリー・ウッズ・ホール落成。	6月、大逆事件、8月、韓国併合条約成立。
1911（明治44）年	47	3月、塾創立10周年記念式典。	「青踏」創刊。
1913（大正2）年	49	5月、世界キリスト教学生大会のため渡米。秋、帰国。	
1914（大正3）年	50	2月、アデライン・ランマン没。	日本、ドイツへ宣戦布告。第一次世界大戦参戦。
1915（大正4）年	51	7月、M・ケアリ・トマス来日、塾で講演。11月、勲六等に叙せられ、宝冠章を受ける。	米価暴落。
1916（大正5）年	52	10月、梅子、捨松、繁子の3人、上田貞子と再会。	大山巖没、国葬に。
1917（大正6）年	53	5月～11月、糖尿病を発病、入院を繰り返す。	ロシア革命。
1918（大正7）年	54	5月 アリス・ベーコン没。	東京女子大学創立。新渡戸稲造校長、安井てつ学監になる。8月、米騒動・シベリア出兵。第一次世界大戦終結。大学令により、公立・私立の大学を認可。
1919（大正8）年	55	1月、梅子、辞意表明。2月、辻マツ、塾長代理となる。2月、大山捨松没。2月、梅子、脳出血で倒れる。その後、入院を繰り返す。	
1920（大正9）年	56	4月、アナ・ハーツホン、藍綬褒章を受ける。	国際連盟発足。慶徳義塾大学、早稲田大学、大学令により設立を認可される。
1923（大正12）年	59	9月、関東大震災により五番町校舎全焼。アナ・ハーツホン、塾復興の資金募集のため渡米。	関東大震災。
1925（大正14）年	61	3月、辻マツ、塾長代理を辞任、後任に星野あいが就任。	治安維持法発布。
1926（大正15）年	62	11月、アナ・ハーツホン、募金行脚を終え、日本へ戻る。	大正天皇没、昭和と改元。
1928（昭和3）年	64	11月、勲五等に叙せられ、瑞宝章を受ける。11月、瓜生繁子没。	初の衆議院議員選挙。
1929（昭和4）年	65	1月、弟純の四男、真を養子とする。5月、塾を訪問。最後の訪問となる。8月16日逝去。青山墓地に埋葬される。星野あい、塾長となる。	世界大恐慌。河井道、恵泉女学園創立。
1932（昭和7）年		5月、小平新校舎（現校舎）落成式。	五・一五事件。
1933（昭和8）年		7月、女子英学塾を津田英学塾と改称	日本、国際連盟脱退通告（発効、1935年）。